

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム冬桜(1F)	評価実施年月日	平成19年12月20日
評価実施構成員氏名	八百谷冷子・佐藤恵子・曳地直美・安田康子・須貝圭子・清水洋子・工藤純子・筒井知子・村上牧子		
記録者氏名	八百谷冷子	記録年月日	平成19年12月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	大切な命を元気で楽しい命に!! 1.耳を傾けましょう 2.手を差しのべましょう 3.美味しく食べましょう 4.草花、音楽を楽しみましょう 5.希望を持って元気な皆さんの命に感謝しましょう という理念のもと支援をしています。		地域ボランティアさんとの畑作り。地域行事(学芸会、運動会、夏祭り)への参加。体操教室への参加。NPOが営むご近所カフェに出向く。
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を心に刻み、実践に向けて取り組んでいます。		見やすい場所に理念をかがけ、それを常に心におき、業務にあたる。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	取り組んでいます。	○	パンフレットはもとより、家族や地域に発行する広報誌にも掲載します。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方々との日常的なあいさつをしています。		庭にベンチを置き気軽に立ち寄ってもらえる環境作りをしています。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	努めています。		地域活動には積極的に参加させて頂いています。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議にて、町内会長さんや民生委員の方々に、お話を聞きながら今後取り組んで行く予定です。		意見をお聞きし、取り組む予定。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開所後7ヶ月ですので、今後、外部評価を活かしよりよいホーム作りをめざします。	○	評価を活かし具体的な改善に努めます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	まだ始まったばかりですが、ホームでの生活の様子を委員の方に説明し理解を得ています。	○	会議で出された意見をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在のところ包括支援センター以外の方とはあまり接触がなくケアプランの様式の相談に伺った時にケアマネの方に色々アドバイス頂いている。	○	今後も積極的に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修は受けているが活用の機会はまだない。		必要に応じ支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に出席したりカンファレンスで話し合ったりして虐待のないホームづくりに努めている。		カンファレンス、アセスメント検討の中で遵守に向けた取り組みをしている。又、人数の許すかぎりの研修参加を予定している。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な説明を行った上で契約し、ご家族の理解、納得を頂いている。		重要事項説明書に沿って説明し、同意のサインを頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営規定の中に項目を設け、説明をしており受け入れ体制もあります。		どんなに小さな意見や不満でも聞ける心を持ち、問題がある時にはカンファレンスで話し合いを持ち支援している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の来訪時等に近況報告(ご本人の暮らしぶりや健康状態など)している。又、急ぎの時は電話で連絡している。金銭管理は個々に合わせて確認頂いている。		ご家族の面会時には近況を伝え、体調不良等特変がある場合は電話で連絡を入れています。全体の状況をお知らせする為、広報誌発行予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現時点では細かな対応の部分でご家族からの意見はありますが(個人的に)今後はご家族の代表の方からも意見を受け入れて行きます。		ご家族から出された意見や苦情はカンファレンスで話し合い、全職員周知、改善に努めています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常日頃から小さな事でも提案や要望は積極的に聞くようにして、運営会議などで話し合い運営に反映させるようにしている。		花壇作りや行事等スタッフ全員1つ役割を持っていて話し合い、実行に移すようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の心身の状況により勤務者のローテーションを組み替え対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を最小限に抑え、入居者様へのダメージを抑えるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には順次多くの職員が参加できる様、調整を行っています。		受講後はカンファレンスで内部研修したり報告書を閲覧できるよう取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	江別市内の管理者交流会やグループホーム交流会等で意見交換など行い、良い所は積極的に取り入れて行きたい。		今年度は地域のグループホームの交流会があり、企画、準備段階から参加させて頂きました。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフルームの設置がされており、休憩時間を確保し、ストレス軽減するための環境を作っている。悩み等は気軽に話せるような取り組みをしている。		カンファレンスの中で仕事に対する悩み等を話し合っている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各個人の目標に向けて研修や講座受講等休日と勤務時間の調整をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホーム内の見学後お茶を飲みながらゆっくりと本音をうかがえる様傾聴している。入居後は不安な状況解消の為に個別の取り組みをしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族来訪時になるべく多くの事をお聞きできるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容によって状況の改善に向けた取り組みを行っています。場合により他のサービスの利用をすすめる事もあります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に必ずホームに招いてご家族からの情報を得て、その中で相互の意見を確認する様努めています。入居後はご本人の生活リズムを尊重し、徐々に馴染める様努めています。		入居後1週間生活リズム把握の為アセスメント活用。職員はさりげない見守りと声かけに留意し他の入居者様との交流となるきっかけを作って行く様にしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	掃除調理等、出来る範囲で一緒に手伝って頂き、その中で話をしたりしながら自然体で生活して頂ける様心がけている。その中で学んだり支えたりする関係を築いています。		調理の味付けをして頂いたり、縫い物を助けてもらったりしてもらう事をしています。歌、ゲーム等とともに楽しめる事を生活の中に取り入れています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方とは小さな事でも相談しながらケアを進め良い状況が進んでいるのではないかと思います。		ご家族の方が刺し子手芸を教えに来て下さったり、他の入居者様と世間話に加えられたりといい関係が出来ています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の方がいつでも訪問に来やすい雰囲気を心がけています。家族との関係を見極め、より良い関係になる様心がけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の方の協力を得、相談しながら支援しています。ご家族の協力により自宅、買い物、旅行、墓参などにも行かれる。		近所の店へ一緒に買い物に行ったり住み慣れた町を歩く様にしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	申し送りや記録等から利用者同士の関係を把握し、職員が状況を見ながら対応して行っています。(孤立することのない様スタッフが間に入る)		たまにぶつかる事もありますが、その後はそれぞれ気づかいされている様子も見られます。(スタッフが入るまで後に引かない事もあります。)スムーズな人間関係が築けるよう支援させて頂く。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在のところ退所後もかかわりを必要とするケースはありません。		ご家族や利用者様が望まれるのであれば対応出来る範囲で支援させて頂く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりのニーズにあった対応をとカンファレンス時、報告・検討しながら取り組んでいます。		意思表示がうまく出来ない方については言語、表情、行動等から把握したりご家族の方にお聞きしたりして検討しています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・本人より聞き取り、アセスメントの中より生まれてから現在までの生活歴や馴染みの暮らし方を把握する様努めております。		センター方式を活用し入居者様情報シートを家族に記入していただいている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の個人記録、申し送り等で、一人ひとりに合った生活をするのはもちろんであり、ご家族の要望等を聞き心身に快適に過ごせる様に努めている。スタッフ間の情報伝達を速やかにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・ご家族の要望を把握しながら、医者・訪看の助言を得て、ケアプランを作成し3ヶ月ごとにプランの見直しをしている。スタッフ間でカンファレンス(月2回)を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一度の見直しを行っているが、状態の変化によって次期ケアプラン見直し前に対応、出来なくなった事に本人・ご家族・関係者との話し合いをしていない		介護計画に沿って、毎月2回のモニタリングを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の行動や心理変化を個別記録し、申し送りやカンファレンスの時に情報を共有しケアプランやケアに活かしている。	○	介護計画が毎月実践されているか確かめて行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	経営主体であるパウロ病院(内科)がバックアップとなっている為、月1回の訪問診療と週1回の訪問看護の支援を受けている。パウロ病院の送迎バスを利用して行事・外出をしている。		緊急時の病院受診の際にご家族が同行出来ない時にはスタッフが同行している。住区会館で行われている講座に希望されている入居者様の送迎、見守りをしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣住民による園芸ボランティアによる庭作りご家族様によるコサージュ作り、刺し子作り、中学校の総合学習による生徒の受け入れ、中学生の楽器演奏ボランティア、ご近所カフェの利用を定期的に行っている。		引き続き継続して行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問歯科(週2回)理美容(月1回)を定期的にご利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度の当ホームの運営推進会議に地域包括支援センターより2名の出席を頂き、長期的なケアマネジメント等に協働して行っている。又、見学や入居者様の紹介等もして下さっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	パウロ病院より毎月訪問診療、毎週訪看が入っているので常に相談して対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	パウロ病院は介護型医療施設であり認知症高齢者の治療やリハビリ治療の医師が配置されている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月1回の訪問診療の医師に同行の看護師が週1回訪問看護で入居者様の健康管理をし、支援してくれている。入居者様の体調が悪い時には、気軽に相談にのって下さり指示して下さる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体のパウロ病院や協力機関と協力し合い、入退院の情報を提供しスムーズに出来る様にしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用契約時に重度化した時の事業所が対応出来る最大のケアについて説明しているが、終末期のあり方については全体で話し合いは持っていない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者様の気持ち、ご家族の思いを連携医療機関と話し合い安心して終末期を過ごしていける様に移行に取り組むよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族の方との情報交換をしながら、住替えによるダメージを最小限におさえ、その人らしい暮らしや尊厳を活かした暮らしが出来るよう支援している。		ご本人が今まで使用していた家具、身の回りの小物、写真等を持参していただき、出来る限り希望に添った居室に設えるよう努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩として尊敬し、常に言葉や態度に失礼のない様に接している。申し送りや記録は個人名にイニシャルを用い、プライバシーの保護徹底に努めている。		常に尊厳の念を介護の基本とし、人生の大先輩として尊い人生を生きてきた入居者様の誇りやプライバシーを尊重している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご利用者様の表情、仕草から言葉や笑顔を引き出せるよう安心安楽な雰囲気を作り、自己決定出来るよう支援している。		個々に応じた対応をし傾聴を心掛けている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、過去の経験を活かした個別のケアに取り組むようにしているが、希望に添った支援が出来ない時もある。		その人らしい暮らしを心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしさを大切にし髪型、服装、おしゃれに合わせ朝の更衣時や入浴時の着替え等は、出来る限りご本人に選んでもらい、訪問理美容の支援をしている。		月に一度の訪問理美容を利用している。中には今迄のいきつけの美容室へ行かれる方もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と入居者様と同じ食事を一緒に楽しく食べ、できるだけ多く参加していただけるようその人の好みや力に合わせて一緒に調理、片付けをしている。		特定の人に片寄らないように多くの人に参加して下さるように声掛けし、お礼、感謝の気持ちを伝えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ、副食に好みのリクエストを頂き、日常的に楽しめるように配慮はしているが、個別化飲み物以外はしていない。アルコールの好きな方には特別な行事の時にノンアルコールのビールで対応させて頂いている。		入浴後、夕食後の団欒ご家族との自室での面会時には個別に飲み物やおやつを楽しめるようにしています。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者が発する排泄サインを見逃さず、排泄のパターンに応じ不安や羞恥、プライバシーの配慮をし自立に向けた支援を行っている。		排泄を察知し失敗の無いよう排泄パターンに合わせた下着や紙パンツ、パットの使用や失禁の対応にはさりげない声掛けに配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	くつろいだ入浴が出来るよう、入浴時の不安やプライバシーに配慮し、一人ひとりの体調に合わせ時間、長さ、回数を調節し支援している。		体調の悪い時はシャワー浴や清拭にし、入浴前にバイタルチェックし健康状態を確認し、入浴前後に水分補給し清潔に努めできる限り希望に添うようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンを把握し良質な睡眠を確保するよう努め、疲労の程度に応じて休息を促し心身を休める場面を個別に取れるように支援している。		睡眠パターンを把握し適度な運動、散歩庭仕事、レク等で安眠につなげるようにし、不眠だと不穏状態になる方には、さり気なく入床を促したりしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家庭菜園や花畑、百人一首やカルタ、刺し子やコサージュ作り、パズルにカラオケ等各入居者様の趣味や嗜好に合わせた楽しみを行えるよう支援し掃除、洗濯物干しや取り入れたたみ、ゴミ捨て等に声かけて手伝っていただくなど役割にも張り合いが持てるよう支援している。		一緒に家事や庭仕事等をした時は役立っている事に感謝やお礼の気持ちを伝え、趣味、レクリエーションの取り組みには、達成感、向上心を一緒に共感し楽しめるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時財布を持っただき、希望に添って買い物を楽しんでもらえるよう、ご自分で支払いできるよう支援している。		ご家族から預かったお金は、普段ホームでお預かりし個別に金銭出納帳をつけ、必要に応じ出し入れし、月に一度はご家族に残高チェックを頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者様の希望に応じて散歩が出来るように配慮し、散歩以外にもホームの畑庭仕事、買い物、体操教室参加、近くの商店街の喫茶カフェへ行けるよう支援している。		体操教室活動、商店街の喫茶カフェの集い参加の同行送迎をしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりが普段はいけない所には個別支援はしていないが、ご家族との外出・外泊等には一緒に出掛けられるよう支援している。		四季を楽しんでもらうために、夏の岩見沢パラ公園、秋の平岡樹芸センターは2ユニット合同でご家族も参加して頂き、外食を楽しんでもらう為にお寿司屋さんへ出掛ける取り組みをしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも自由に電話がかけられるように声かけし、居室でゆっくりお話が出来るよう電話子機の利用を支援し、手紙については郵便番号を調べたり宛先の住所氏名を書いて投函しに行く支援を行っている。		夏に絵手紙の暑中お見舞を各自1～2枚書いて投函している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもホームを訪ねて頂けるよう、明るく開放的な雰囲気作りを心がけ、一緒にお茶や食事をして頂いたりと気兼ねなく過ごせるように居間や居室以外にも居心地の良い空間づくりに配慮している。		ワークスペースなどゆっくり談話できる場所などを提供している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止となる具体的な行為を理解し、安全な事であっても例外としてとらえ、身体拘束をしないケアに職員全体で取り組んでいる。		身体拘束の研修にも参加している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は開錠し、利用者様が戸外に行かれる時は安全に配慮し、一緒に同行させて頂くなどして自由な暮らしを送って頂けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は色々な業務をしながらも、利用者様の動向を把握し安全に配慮している。夜勤帯は、時間毎の見回りと少しの物音でも聞き逃さず対応出来る様つとめている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様個々の状況により、本人、家族とも相談し安全な生活を支援している。又、針仕事は職員も一緒に取り組み見守り支援している。夜勤帯では、刃物等、危険物は鍵のかかる棚に収納するなど配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・アクシデントは、職員間で共有認識を計るため、ケーススタディを行っている。利用者様個々の状態から予測される事故を検討し、未然に事故防止出来る様取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	実技による蘇生術・救急手当の研修を職員全員が受けている。利用者様の急変・事故発生時の連絡等の確認を職員間で周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防の協力により、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を利用者様(一部)参加により実施した。又、地域代表・家族代表を交えた運営会議において、災害時の協力を要請している。又、大麻での災害に備えた災害図上訓練(DIG)にも参加させて頂き防災・減災の心構えを新たにさせられた。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについて説明し、家族としての希望を伺いながら、来訪時・電話などで話し合いを持ち、抑圧感のない生活を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的なバイタルチェックと、食事・水分摂取量・排泄をチェックし、表情等からも利用者様の異変に気付ける様職員間で情報を共有するようつとめている。異変時には、速やかに訪看の指示を仰ぎ家族様への連絡と医療機関受診を対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	最新の処方箋を「薬の一覧」としてファイルし、職員が内容を把握できる様にしている。配薬時は、薬包の名前、服薬時間を確認してご本人に手渡し正しく服薬されるまで見守りしています。又、服薬後も他スタッフによるチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便と毎日の水分摂取量を把握し、飲食物の工夫や体を動かすよう働きかけを行っている。自然排便が難しい方については、訪看・医師と相談し服薬して頂いている。又、野菜・海草類・きのこ類などを多く摂取して頂くようにしている。		牛乳・ヨーグルトは毎日摂取しており、便秘がちな時はオリゴ糖も摂取して頂く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔保持の意義を職員全員が理解し日常的に食後の口腔ケアを支援している。訪問歯科医による口腔ケアの指導も本人及び職員が受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し申し送りで情報の共有をはかっている。		栄養士によるメニュー作成の勉強会などを通して、支援につなげて行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染予防マニュアルを職員それぞれが熟読し、予防に努めている。インフルエンザは職員・利用者様共に予防接種を受けている。ご家族様には体調不良時の来所を控えるなどご理解頂けるようお話させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具(布巾・まな板・包丁等)は常に殺菌消毒を行っている。新鮮な食材を口に出来るよう買い物など配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	靴を履く際は手すりにつかまる様声かけしたり、椅子を用意するなど転倒予防している。花の季節には、花プランターを置き演出している。段差のないスロープ式の玄関先で手すりもついている。		庭にはテーブル・イスを置き季節を楽しめるようにしている。玄関先にもテーブル・イスを置き、ご近所の方々との交流の場として広げていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には季節感のあるレイアウトを利用者様と一緒に出来るよう工夫をしている。季節ごとの花は絶やさない様にしている。食事の時は心地良いBGMを流すようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓テーブル以外に2ヶ所共用空間があり、自由に過ごせるようテーブル・ソファ・TVを設置している。ウッドデッキと庭にもベンチテーブルを設置している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人ご家族と相談し使い慣れた家具等を持ち込んで頂いている。それぞれのご家族などの写真を貼るなど心地良い空間作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝から数回窓を開け外気を入れるなど、快適に過ごせるよう換気空調に配慮している。湿度にも気を配り、加湿器をリビングに2台設置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車イス、歩行器を使用出来るよう広いスペースを確保しており、移動場所には手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々のわかる力を生かし、出来る事に取り組んで頂けるよう声かけ支援している。トイレ各個室にはわかりやすい表示をし混乱を防ぐ工夫がされ、夜間はトイレ電気は消灯しないなど、自立して暮らせる工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	バルコニーには、テーブル・イスを設置、外気浴など楽しんで頂いている。畑横にもベンチを置きくつろいで頂いている。物干し台を設置し利用者様と共に干しに出るなどしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

◎いつも入居者様とスタッフの明るい声と笑顔にあふれているホームを目指している。◎一人一人が生き生きと楽しそうに自分らしく暮らせるよう支援している。◎大きな八重桜が3本あり、満開の桜の下に集うだけで癒される感じがある。◎近所に商店街があり、散歩等に格好の遊歩道、小学校、広場等がある。